

様式 4

令和 7 年度第 2 回

富士見市生涯学習推進市民懇談会

議事録

日 時	令和 7 年 9 月 10 日 (水) 開会 午前 10 時 00 分 閉会 午後 0 時 30 分								
場 所	富士見市立中央図書館 2 階 集会室								
出席者	参加者	出井(隆)氏	新井氏	木原氏	佐々木座長				
		欠	○	○	○				
		出井(あ)氏	山崎氏	深瀬氏	小谷氏				
		欠	欠	○	欠				
	事務局	生涯学習課 主任							
公開・ 非公開	公開 (傍聴者 なし)								
議題	1 開 会 2 あいさつ 3 内 容 ・第 4 次富士見市生涯学習推進基本計画案について 4 そ の 他 ・次回の開催について 5 閉 会								

## 議 事 内 容

	<p><b>1 開 会</b></p> <p><b>2 あいさつ</b> 佐々木座長からあいさつを行った。</p> <p><b>3 内 容</b></p> <p>第4次富士見市生涯学習推進基本計画案について事務局より説明を行った。協議内容は以下の通り。</p>
事務局	<p>内容が多いため、章ごとに説明と意見を伺いたい。</p> <p>第1章の説明を行った。</p>
座 長	第1章について意見はあるか。
参加者	富士見市の生涯学習の考え方は、国や県の考え方を踏まえたものなのか。
事務局	この後の内容になるが、国・県の方針を踏まえ、市としての生涯学習の今後の方針を考えており、それに加え、市の基本理念も引き継ぎ、第4次計画を検討している。
参加者	ではなぜそれを第1章に記載していないのか。
事務局	第1章で説明している富士見市の生涯学習の考え方は、基本理念のことであり、市で継承していく考え方である。また、P17の第2章「第4次計画に向けて」で国・県の考え方も踏まえた上で第4次計画を策定していくといった内容を記載している。
参加者	その内容を第1章にも書いた方がよいのではないか。国・県の動向について触れているのに、市の考え方では全く触れずに第2次計画からものを継承していくことしか書かれていらないことに違和感がある。新しいものを取り入れる姿勢が見られない。新しいものを取り込んで推進していくことを少しでも書いておいた方が良いのではないか。
事務局	この計画案の組み立てにも関係する内容であるため、一度事務局で検討させていただく。
事務局	欠席者からの意見を共有する。理念と課題についてよくわかった。富士見市の生涯学習の考え方は、自発的な学びがまちづくりにつながるような発展的な活動になることを狙いとしている。自発的な学びの楽しさ喜びをつぶやいたりするプラットホームのような場があれば、個々の活動が自然と繋がるのではないか。といった意見である。
座 長	他に意見がなければ第2章へ。

事務局	事務局から第2章について説明
座長	では、第2章についての意見はあるか。
事務局	先日開催された府内委員会では、アンケートの分析については文字が多く読み取りにくいため、表や図を活用してはという意見があった。また、先ほどいただいた意見の、国・県の動向も踏まえた市としての今後の方針をP17に記載している。
参加者	それを踏まえてもP5にも記載した方が良い。
事務局	P5については、今までの計画の組立てを踏襲しているため、まずは基本理念について説明し、国・県の考えだけでなく、第3次計画の実績やアンケート結果の分析を踏まえて、P17の「第4次計画に向けて」となっている。一度持ち帰り、計画の形について検討を行う。
参加者	第1章のタイトルが「生涯学習推進基本計画の策定にあたって」であり、その名称からも今までの踏襲と国・県の動向も踏まえてアップデートしていくという一言を書くだけでも変わるものではないか。
座長	府内委員会でのアンケートの分析についての文字が多くて読み取りにくいという意見についてはどうか。
参加者	きちんと振り返りが書かれていて読んでいてわかりやすく、特に違和感はない。しかし、アンケートの調査結果から生涯学習とは何かが見えておらず、第4次計画の中で市民の生涯教育に対する理解を高めていくといった内容を含めてもよいのでは。
参加者	P17については、第3次計画でやってきたことを踏まえて、今後に向けての考えをまとめていることだが、「学びへの敷居を低くすること」や「多世代間や異文化間で十分交流できる場を創出」など、現実としては難しい施策が書かれている。これが後の第4次計画につながっているという理解でよいか。
事務局	おっしゃる通りで、指摘いただいた部分はどの分野でも課題となっているものである。第4次計画では重点施策を設定し、学びへの敷居を低くするための施策や多世代交流・異文化間交流ができるような事業の検討などを盛り込んでいる。
参加者	「市民が自ら地域貢献を行える仕組みをつくることが重要」とあるが、これは市民人材バンク制度やボランティアのことか。そういうものの支援を行うという理解でよいか。
事務局	それらの他にも富士見市社会福祉協議会でもボランティアのサポートを行っているが、共有や連携が出来ていなかった。今後は意見交換や共有できる場を作っていく、連携していきたいと考えている。

参加者	情報交換の場を作ることは大事な第1歩である。それをどう回していくかをコーディネートしていく人材が重要であり、育成していくのか、またはどう採用していくのか、成果主義のような考え方を取り入れるなど柔軟な発想が必要である。ハードウェアは出来ているが、ソフトウェアが出来ていない状態である。難しい問題であるが粘り強く取り組むべきものである。
座長	他に意見がなければ第3章へ。
事務局	事務局より第3章について説明
参加者	
事務局	欠席者からの意見を共有する。協働による「学びやすい環境づくり」における行政の働きはますます重要になってくる。お膳立てのための行政、つながりができた後は、市民個人の責任においての活動をきちんと線引きして、自立した活動への支援が求められると思う。といった意見である。
座長	自立した活動への支援が重要ということか。
参加者	それはP20の施策の体系に対する意見か。
事務局	この意見は第3章への意見の欄に記入いただいたおり、第3章の2「基本的な考え方」の「学びやすい環境づくり」についての意見であると認識している。
参加者	施策の体系だとどこにあたるのか。
事務局	大きな部分でいうと基本目標①多様な学習活動への支援にあたると考える。
参加者	そうなると重点施策である「学習情報の発信・相談体制の充実・推進体制の充実」に深掘して盛り込んでほしいという意見なのか。
事務局	そこまで具体的なものではなく、自立した学習支援が重要であり求められているという一つの意見ではないか。
参加者	この意見に賛成である。行政は年に1度事業をやって終了となっているが、それだけでなく継続して自立して市民の活動をサポートしていくことが必要である。そのようなことが今回の計画でどう書かれているか注目していた。人は自発的に動いているときが一番生き生きとしており、趣味や考えが合う仲間たちで集まり、グループを作り活動し、それがどんどん発展していき、地域の問題解決につながる可能性も秘めている。集団を継続してサポートすることが重要であるが、行政は事業やフェスティバルをやって終わってしまっている印象がある。
事務局	市の大きなイベントに注目するとそのような印象があるかもしれないが、実際細かい事業を見ていくと、地域子ども教室や、子ども大学などの多くの事業が年間を通して活動し、継続した支援を行っている。ただ、

	そのような団体に入らないとサポートが受けられないのかと言った意見はあるだろう。
参加者	自発的にサークルや団体を作りやすいかというとそうではない。
事務局	本来であれば、サークル活動のサポートやコーディネートすることは、地域の実態にも詳しい公民館等の地域施設の重要な役割であり、実際に活動する拠点施設の職員がサークル活動をサポートすることが最適だろう。
参加者	改めて市が現在取り組んでいることをアピールすることも重要である。
座 長	他になければ、第4章へ。
	事務局から第4章について説明。
座 長	ではまず基本目標①（1）についての意見を伺う。
参加者	学校教育課の担当になるが中学校の部活動の地域移行の話が進んでいる。大会も学校単位でなくクラブ単位での参加ができるようになってきたなど様々な話を伺っている。部活動が社会体育に移行していく課題について、学校教育課と生涯学習課でどのように進めていくかがこの計画から見えない。新たな要素や課題としてすでに提示されているものであり、それに対応するものがあってもよいのでは。
事務局	部活動の地域移行については、中心で進めているのが学校教育課であるため、そちらに確認させていただく。 部活動については踏み込めていなかったため、（2）の推進体制の充実でもう少し追加した書き方ができるか検討する。
参加者	P35の⑤と重なるのではないか。
事務局	そちらはまた別の意図で記載している。具体例になるが、夏休みに開催される子ども体験室に講師として富士見高校の科学部の生徒に協力をいただいた取り組みがある。そのようなものを想定して記載している。
座 長	部活動の地域移行について追加されると、主な担当に学校教育課が入り、生涯学習課と一緒に進めていくのか。
事務局	部活動の地域移行は、文化・スポーツの領域になるため、生涯学習課とうよりは文化・スポーツ振興課が関わってくる。そちらも含めて学校教育課に確認を行う。
参加者	行政のどこかで扱っていないといけない課題であり、学校教育で検討していると伺っているが、富士見市では具体的に進んでいないように感じる。
事務局	そちらも含めて学校教育課に確認する。

参加者	体裁の話になるが、KPIとKSFの扱いに違和感がある。P7でのKPIとKSFでは、違和感なく読み取れる。KPIとは、事業を進めるにあたっての評価する指標であり、KSFは事業を成功させる要因のことであり、目標達成にあたってどんなことをするかの部分がこれに該当する。 P22のKSFは評価に対する指標が記載されているため、KPIではないと違和感があるので見直してほしい。
事務局	KPIとKSFは市の上位計画に合わせて設定しているため、書き方については一度持ち帰って検討する。
参加者	P22の③高齢者の学習機会の充実について、様々な取組を行っているが一番の課題は新しい学生が入ってこない。既存の学生は減っており、どのようなアクションをしたら若く新しい人が入ってくるのか。非常に大きな課題であり、そこをどのようにカバーしていくのかを深く追求してほしい。P23にSNSの活用とあるが、今の若い職員にはSNSを活用してブームを起こせる人もいるかもしれないが、職員ではない一般的のインフルエンサーを活用していくべきである。広報紙やポスターや声掛けだけでは限りがあるので、何か新しい施策が欲しいと思っている。
事務局	庁内からの意見で、新規事業としてインフルエンサーの活用・発掘についての提案が出ている。その部分を深掘りして、担当課と検討し計画に盛り込んでいけるかも含め調整する。
事務局	参加者の固定化・高齢化は、特に高齢者学級では顕著である。免許の返納等で交通手段を失い、参加できなくなってしまったなどの話も伺っている。高齢者学級に出ることや人と顔を合わせることが生きがいにつながっており、サポートは必要であると考えている。また、文化祭もコロナ禍を経て参加者が減ってしまっているという意見も出ており、高齢者だけでなく生涯学習全体としての課題につながっている。(2)の話にもなるが、今まで各担当が各自で課題解決に向けて取り組んでいたが、市全体の共通の課題であることが明確であるため、今後は市全体で考えて取り組む体制を作りたいと考えている。
参加者	高齢者サロンに人が集まらないという課題があったため、子ども食堂でもあるように誰でも参加してよいという形に変えたという話がある。それと同様にコミュニティ大学なども高齢者に限定されているものと思っている人が多いので、誰でも来てもよいことを伝えると参加する人が増えるかもしれない。ライフステージに合わせた学習機会の充実とあるが、年齢や性別に分断された偏りがあるコミュニティになってしまう可能性がある。そこをうまく調整するものがないと課題は改善できないのでは。P17にも「多世代間や異文化間で十分に交流できる場を創出」とあるので、P22のライフステージに合わせた学習機会の充実にも、ライフステージに合わせた方々が中心にはなるが、それ以外の多世代や多文化の方も集えるような仕組みを盛り込めるとよいのではないか。
事務局	多世代の交流については、基本目標③の（3）市民間交流の促進で重点的に記載している。ライフステージに合わせた学習機会の充実というこ

	とで客観的にわかりやすいように、前半はライフステージ毎に記載しているが、後半はライフステージ関係なく学習するものを記載している。ライフステージに合わせた学習機会とあるが、現代的課題に応じた学習や地域課題、人権・平和に関する学習機会などは、人生のどのタイミングでも学習できるものであり、代表的な事業のピースフェスティバルは高齢者から子どもまで誰もが参加できる事業であり、世代ごとの事業だけを記載している項目ではない。多世代交流は重要であることは認識しているため、基本目標③の（3）で重点的に記載する形をとっている。
参加者	高齢者は自力で移動ができない為、送迎してもらうことができる休日に床屋さんが混んでいるという話を聞いたことがある。やはり高齢者にとって交通手段は大きな課題である。
参加者	富士見市は公共バスの本数が非常に少ない。免許返納が進んでいるので、巡回バスやスクールバスなどを増やす施策を行うだけで公民館等の利用者が増えるだろう。デマンドタクシーは使いにくくて不便である。コミュニティ大学はスクールバスがあるが、それも何年続くか不安がある。切実な問題である。
事務局	欠席者からも交通手段についての意見を伺っている。また、先日の庁内委員会でも高齢者部門の担当から交通手段についての意見が出ており、この計画にどう表現できるかを検討していきたい。
座長	他になければ、基本目標①（2）へ。
座長	事務局から基本目標①（2）について説明。
参加者	では、基本目標①（2）について意見を伺う。
事務局	富士見市公式SNSの使用にあたっては何かルールや制限はあるのか。
参加者	富士見市公式LINEについては、熱中症の注意喚起等を除き、1つの事業につき1回のみの投稿という制限がある。例えば事業の募集開始に1回投稿し、その後募集人数が少ないからもう1回投稿することはできない。また、1日の投稿時間が決まっており、昼の12時と夕方の17時に1回ずつであり、他の課と投稿時間が重ならないように事前に調整が必要である。
事務局	先日投稿があった勝瀬de縁日やふるさと祭りについても1回しか投稿できないのか。
参加者	ふるさと祭りについては、今回はクラウドファンディングの話だったので再度ふるさとまつりについての投稿がされる可能性もある。
参加者	コミュニティ大学でも富士見市公式LINEに投稿することはできるのか。

事務局	コミュニティ大学の事務局の担当課が秘書広報課に依頼をすれば、投稿することは可能である。生涯学習課でも事務局を担当している団体の事業の周知に公式LINEを活用している。
事務局	LINE以外のFacebookやXは、HPの更新の際に選べば更新でき、投稿回数の制限はない。
座長	他になければ、基本目標②へ。
	事務局から基本目標②（1）について説明。
座長	では、基本目標②（1）について意見を伺う。
参加者	様々な取組を実施しているが、YouTubeを活用した情報発信はしていないのか。いかだラリーや生き物調査などやってみてもおもしろいのではないか。
事務局	動画配信については各担当の力量になっており、それらが動画配信されたということは把握していない。コロナ禍の際に、南畠公民館で「お家で出来る工作」や水谷文化祭の発表映像の公開などを実施していたが、現在まで継続して出来てはいない。
参加者	地域資源を活かした事業をどれだけアピールするかは重要なことである。広い範囲に周知するには範囲と頻度を意識しSNSを活用し、取り組むと良いのではないか。
事務局	富士見市には国指定の歴史公園である水子貝塚公園や、文化ではキラリ☆ふじみがあり、それらを活用した市の魅力の再発見や地域の愛着につながるような取組みを既に実施しているが、知る人ぞ知るものになってしまっている可能性もあり、地域資源を活かしきれていない可能性もある。今後、情報発信の強化をしていきたい。
参加者	市民学芸員養成講座は何人くらい受講しているのか。
座長	毎回20から30人ほど参加している。養成講座を受講した方がすべて市民学芸員として活動しているわけではない。市民学芸員も高齢化しており、登録はしているが実際には活動できていない方もいる。活動している方の年齢層は70代がメインで、最近なった方だと60代の方もいる。
座長	他になければ、基本目標②（2）と（3）へ。
	事務局から基本目標②（2）と（3）について説明。
座長	では、基本目標②（2）と（3）について意見を伺う。
参加者	人材バンクの登録者数はおおよそ何人くらいなのか。

座 長	大体 250 名程度である。
参加者	新規登録はどのくらいいるのか。
事務局	毎月 1 ~ 2 名程度、新規登録の相談がある。ただ、連絡がつかず登録削除になる登録者もいるので人数が大きく増えていない。
参加者	新規登録者に対して、面談や書類審査はあるのか。
事務局	電子申請の方は必ず面談を行うと要綱で規定されているが、他は特に規定はない。しかし、実際の活動につなげるには事務局が登録者のことを探査している必要があるため、窓口にお越しいただいた際にヒアリングを実施している。
参加者	登録者の特技の発表機会はないのか。またそれを実施しようとする動きはないのか。アピールの場がないと活用につながらないのではないか。
座 長	人材バンク制度 15 周年の時にフェスティバルを実施し、芸能などのジャンルごとにブースで分かれて実施した。毎年やりたいと話題にはなるが、労力が非常にかかるため実施には至らない。
事務局	フェスティバルの規模になると、当時より推進員の会のメンバーも減っておりサポート体制が不十分であることから、実施に向けた体制の検討も必要である。現在は、登録者の活動の様子を周知するために市内公共施設で活動の様子の写真展を実施するなど、様々な方法で PR 活動を行っている。
参加者	イベントを実際に運営する側は非常に大変だが、登録者の活動の様子を動画撮影し、富士見市 Y o u T u b e チャンネルを作りそこにアップした方が良い。
事務局	富士見市の Y o u T u b e チャンネルは既にあるため、今後どのように活用していくかを Y o u T u b e アカウントを管理している担当課との調整を含め検討していく。動画や音声は情報として非常に有用であるため、前向きに検討したい。
参加者	継続的な努力を続けていかないと新たな人材の発掘に繋がらない。
参加者	(3) の③に、新規にカタリバを実施検討するとあるが、フジミライテラスで今年の 12 月に新規に実施する予定である。また、書き方として気になるのが若者や子育て世代が気軽に参加できるイベントや、未来の地域の担い手である学生という記載がある。行政の取組みは、高齢者と子ども向けが多い印象があり、その書き方ではまた今回も現役世代が抜けてしまっている印象が出てしまう。P 17 に、「多世代間や異文化間で十分に交流できる場を創出することが、地域の共生を促進する上で重要です」と書かれているので、インクルーシブに地域交流機会を創出するといった書き方の方がよいのではないかと思う。若者や子育て世代を含めた全世代が交流できる場にした方がよい。P 31 の前段の文章について

	ても、若い世代だけでなく、全世代での交流機会や関係づくりについて書いた方が良い。
事務局	子ども向け事業が多いという印象があるが、実際事業を開催してみると同じ子がいろんな事業に参加しており、参加していない子はどの事業にも参加できていない可能性がある。子ども向け事業は、親がアンテナを張って情報を入手できないと参加機会すら得られない状況である。子育て世代に興味関心を持ってもらうことが、子どもの参加にもつながり、また子どもが来ると親も参加することが増えるため、今回力を入れるべきと考えた。
参加者	世の中には家族がいない方もおり、その方々も一人で生き生きと生きていける世の中を作っていくべきであるため、多様な価値観を踏まえた内容にするべきである。
事務局	書き方について持ち帰り検討させていただく。
参加者	参加者の高齢化の課題に対応するために、地域の人材を発掘する必要があるという考えに違和感がある。地域の課題はそれだけでなく、その地域独自のものもあり、それらは生涯学習の自発的なグループ活動を通して見いだせるものもある。課題を見つけて取り組むことが大事であり、課題を見出し活動するためには新たな人材が必要という流れである。
事務局	生涯学習の長年クリアできていない課題として、参加者の固定化・高齢化が見えており、今回重点施策として設定し、若い世代や地域の新たな人材を発掘する必要があると考え、このような書き方をした。
参加者	若い世代だけでなく単身世代の参加も少ないはずであり、そこについての記載もすべきである。
事務局	現在の書き方だと、高齢者からいきなり若者世代になっている印象があり、ミドル世代も含めた書き方ができた方が良いという意見でよろしいか。
参加者	その通りである。
座長	子育て世代向けや若者向けと書かれてしまうと、参加しにくいものがある。
参加者	これは基本計画なので、対象などはもう少し曖昧な表現でもよいのではないか。
参加者	カタリバも、働いている世代と高校生の交流でありそこには単身者も含まれる。
座長	新たな事業を実施する時は、誰でも参加できる案内をした方が良い。例えば、南畠公民館で実施されたCraft Night Gardenは参加者はどのような方が来たのか。

参加者	赤ちゃんから高齢者まで全世代が参加していた。
事務局	南畠公民館から話を伺ったが、このイベントは実行委員会に若い世代のお母さんが多く参加しており、大人もゆっくり過ごせ、子どもも楽しめる会場のレイアウトを工夫でき、とても良い取組みであった。
座長	各町会でもまちカフェなど実施しており、演奏してほしいと依頼があり参加した。依頼の際には高齢者が多いと伺っていたが、実際は乳幼児を連れたお母さんや若い家族も来ており、幅広い世代の方が参加していた。
座長	他になければ、次へ。
	事務局から基本目標③について説明。
	では、基本目標③について意見を伺う。
参加者	発表機会の充実として市民文化祭があるが、実質展示会であり動的なものではなく後に残る印象がない。次へつなぐ、次へのステップが足りていない。ふじみ野市は音楽都市を表明し、力を入れているが、富士見市は何かこれだというものはないのか。
事務局	少し回答から外れてしまうが、文化芸術振興委員会で芸術家の登録制度について検討が進められ、プロの演奏家に演奏してもらえる環境を整えている。
座長	ふじみ野市はプロの人たちが集まっている団体があり、その方々に年に何回か演奏してもらう機会がある。また、川越市のやまぶき会館でも登録しているプロの方に演奏してもらう機会が年に何回かある。富士見市でもプロの方に登録してもらい、年に数回プロの方の演奏を聴く機会を提供し、活性化しようという計画がある。キラリ☆ふじみが改修工事に入るので、そこも調整しているとのことである。
参加者	文化祭のマンネリ化の打破のために果たす公民館主事の役割があると思うが、何か取り組んでいるものはあるのか。
事務局	富士見市では、公民館に配属された社会教育主事が公民館主事として扱われている。文化祭マンネリ化打破のための具体的な取組みについて、伺ってはいないが、公民館・交流センターにとって文化祭の参加者が減っているのは課題であり、その施設だけではなく全体としての課題として検討していきたい。
参加者	地域の人材には、行政の職員も含まれる。行政の職員が介入すると解決する課題もあり、なにかできるのではないか。
事務局	社会教育主事が地域の方の活動をサポートするのは重要な役割であると考えており、基本目標①（2）相談体制の充実の重点施策の一つとして取り組んでいきたい。地域に近く、地域の実態に詳しい公民館等の職員が気軽に相談に乗れる体制は必要である。

参加者	公民館の職員は各団体の動きを把握している。公民館運営審議会で世代間の交流する場を作る相談をしたところ、ナイトガーデンの企画を紹介され、話が進んだ例もある。公民館は情報を持っており、公民館の職員はすごく重要な位置にいる。
参加者	拠点により、コーディネートできる人がいたりいなかつたりする。
事務局	なるべくいらない所を作らないように、社会教育主事の研修機会を設けているが、施設の職員は職員数が少ないため、研修に参加できる施設と参加できない施設がある。また、人事異動により詳しい職員が抜けてしまったが、後継の職員が育っていない施設もある。公民館の方でも研修会を実施するなど、職員の育成に力を入れているとは言え、若い職員が多く、教育が必要な状況である。
座長	文化祭については、文化団体連合会が主に取り組んでおり、文化団体連合会とその事務局との話し合いで今後の文化祭について話し合っていくことになる。
参加者	展示だけでなく体験なども行っており、コミュニケーションをとる機会も増えている。
参加者	人材バンクなどの活性化には、発表の機会を設け、発表した記録を残し、S N S を活用し、広めていく仕組みづくりが重要である。このままでは人材バンクへ新たに登録する方が減ってしまう。市民へのアピール機会が重要である。
参加者	人材バンクへ新たに登録する方へのサポートも重要である。
座長	かつてワンポイントストレッチ講座の動画をF a c e b o o k にアップしたことがあるが、登録者には、なんだか一発芸で終わってしまったようだと言われてしまったこともあるので、やり方が難しい。
座長	他になければ、次へ。
	事務局から基本目標④について説明。
参加者	公共施設のメンテナンス工事の工期が長すぎる。民間であれば、公民館全体を休館せずに、順次工事を実施し、営業への影響を最小限にしていく。市のように長期休館する必要はない。メンテナンスは重要であるが、取組み方法に課題がある。
事務局	施設工事の話なので、本計画に書き込めるかは難しいが、担当課へ情報共有する。
参加者	P 3 8 の⑦のデジタルデバイド対策について、鶴瀬西交流センターのパソコン教室は予約不要だが、全くの初心者には向いていない内容である。内容が難しく、もう参加しなくなる方もいるのではないか。やり方を考え、実施するべきである。

事務局	ここでのデジタルデバイド対策は、初步的なスマートフォンの使い方教室などを想定して設定している。鶴瀬西交流センターのパソコン教室はサークルの方が中心になって行っているものであり、初心者向きではないことは把握しており、事業案内の際に、完全な初心者向きなのか、少し発展的なことを学べるところか、などを整理して案内することが必要と考える。
座長	⑤の学習施設としての機能の充実について、公民館・交流センターのフリースペースで子どもたちが学習している様子は見かけるが、そこまで活発ではない。ふじみ野市のステラウェストに行った際に、多くの中学生の子どもたちが勉強しており、質問に答える大学生らしい人もいた。あの取り組みは何なのか。
事務局	確認する。富士見市では、中・高校生くらいの子どもが集まり勉強している事業としては生活困窮者自立支援事業の学習支援事業「アスポート」がある。その事業では、委託先の団体が大学と連携しており、教員志望の大学生ボランティアなどが事業に参加している。
参加者	居場所づくりの一環で、若い学生の子が参加しているのかもしれない。
座長	富士見市でも公民館・交流センターが近所の子どもたちにとって勉強できる場所になると良い。
事務局	公民館等は中学生だけで夜間フリースペースを利用することが難しいため、何らかの方法を検討する必要がある。
座長	他になければ、次へ。
事務局	事務局から第5章について説明。
参加者	KPIやKSFの話になるが、KPIは目標設定や、事業の見直しに使われることもある。ここに書かなくてもよいが、そのような視点で事業の見直しなどを行った方がよいのでは。一度始めるとやめることができず、惰性で続けているものもあるのではないか。KPIを意識して事業の見直しも行うことを一言書けばいいのではないか。
事務局	団体から当初の目的は達成したが自分たちの代で終わりにするわけにはいかないという声を聞いたこともあるが、事務局からはやめることを勧めることはできない。ただ、事業をやめではないが、担い手不足により事業の形をアップデートして行っているものもある。市でも事業のスクラップアンドビルドが進められている状態であり、そのような視点をもって事業を推進していくことは重要な考えである。
<b>4 その他</b>	
(1) 次回開催について	
事務局より今後の予定について説明を行った。	
意見、質疑なし	

5 閉 会